令和7年度

佐賀県医療的ケア児支援センター報告

佐賀県医療的ケア児支援センター
（一般社団法人あまね）

佐賀県医療的ケア児
支援センター

医ケア児等と家族が支援者とつながり、
支援者がチームをつくり、
笑顔で暮らしつづけられる街へ・・・

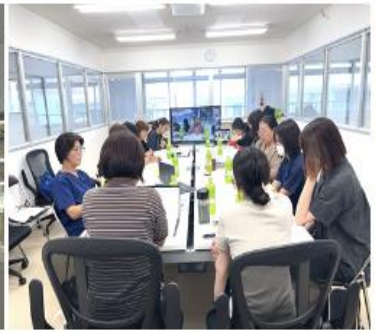
私たちの役割

つながる
共につながり

つくる
チームづくり

つづける
伴走しつづける

佐賀県医療的ケア児支援センター



佐賀県医療的ケア児
支援センター

実務に関わる人員体制

職名	担当	氏名
センター長	医療連携	小野直子
副センター長	地域体制整備	大野真如
医療的ケア児等コーディネーター	個別支援	琴岡智子
医療的ケア児等コーディネーター	就園・就学	福田由里絵
医療的ケア児等コーディネーター	防災	上田学
医療的ケア児等コーディネーター	相談役	徳永尚子

令和７年度センター実績報告内容

１．相談対応実績について

２．課題別対応状況について
（個別支援/体制整備/就園/防災 ）

３．　佐賀県の現状と今後の方針

４．今後の課題と方向性

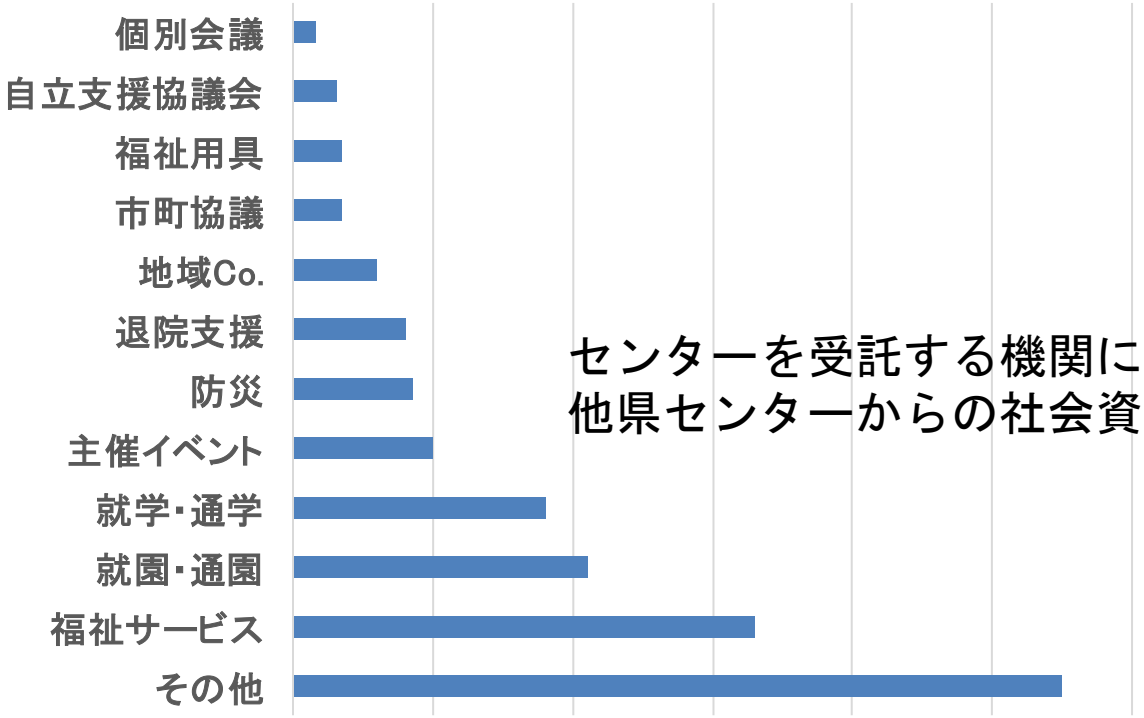
佐賀県医療的ケア児
支援センター

1.相談対応実績について

電話	メール	専用フォーム	来所	MCS	その他	合計
881	387	3	27	131	6	1435

令和7年4月～12月（9ヶ月）

相談対応は電話が最も多く、881件
支援者からの連絡が1384件で、97%　（家族からの連絡51件、3%）



相談内容内訳
① その他
② 福祉サービス
③ 就園・通園
④ 就学・通学

センターを受託する機関によって相談内容が変わる
他県センターからの社会資源開発に関する相談も・・

佐賀県医療的ケア児
支援センター

その他の内訳

基幹型相談支援センターとの連携について/社会的養護の件

視察依頼/研修依頼/見学依頼/事例検討会依頼/講座参加の依頼

支援会議開催要請

8件学会・大会・研修会・検討会にて講師・シンポジストを受託

母親への対応に関する相談/訪問で介入している方の相談/家族への対応の仕方について相談/家族支援について/家族会について

就労受け入れの情報について

センター同士の連携について/他県の情報について

地域連携室に関しての不安/医療機関への疑問

小慢の申請について/1型DMの診療について/蓄電池について

医療機器取扱いについて/小慢のレスパイト訪問について/MCSについて

短期入所開設相談/人員体制相談等(福岡県・大阪府・三重県から相談)

緊急時の受診可能な医療機関について

情報提供/緊急時対応方法/医ケア児センターのお知らせについて

佐賀県医療的ケア児
支援センター

アウトリーチ件数

令和7年4月～12月（9ヶ月）

就園通園	防災	挨拶まわり	自立支援協議会	退院支援	就学通学	福祉サービス	視察
34	33	27	10	11	9	8	8
個別支援会議	発表	庁内会議	自宅訪問	市町協議	検討会	打ち合わせ	その他
7	7	4	3	3	3	2	4

合計	173 件

令和7年度　月平均19.2件

①就園通園　②防災　③挨拶まわり　④自立支援協議会　⑤退院支援の順に多かった

同時間帯に開催される会議等への出席のため3台車両が必要になる日もあった
地域コーディネーターが就園支援で動けるようになると、アウトリーチも減ってくる見込み
今年はセンターが変わったため、挨拶まわりを丁寧に行い、顔の見える関係づくりを目指した

県外視察・・・宮城県・愛知県・熊本県・北海道・長崎県
視察受入・・・京都府・東京都・福岡県など8つの団体

佐賀県医療的ケア児支援センター

2.課題別対応について

個別支援（担当：琴岡）

年間対応医ケア児数　24人の内訳

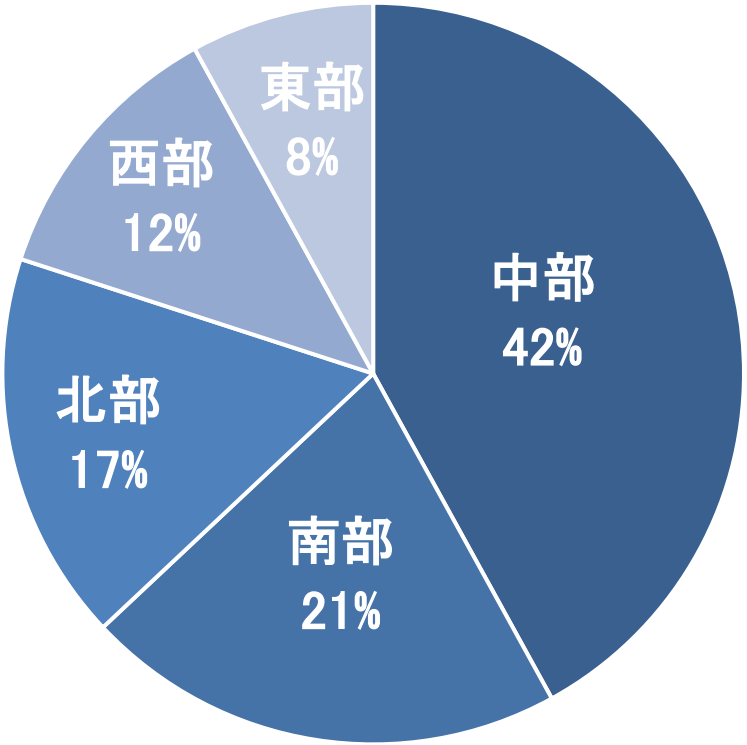
〇退院支援数　11件
うち1件は隣県地域連携室からの介入依頼

〇自宅訪問　3件
内訳：保健師同行
他市町村からの訪問依頼
訪問看護ステーション同行

〇個別支援会議　7件
内訳：困難事例への対応
社会的擁護児童への対応
卒後の就労事業所の相談
卒後の生活介護や就業体験先について

〇その他
小児がんのお子さんの相談
1型糖尿病児童の学内支援会議
修学旅行に訪問看護ステーションの同行相談

相談者の圏域



相談者の圏域は、①中部②南部③北部④西部⑤東部の順であった。年齢は0歳～3歳が１４人と最も多く、ついで4～7歳が5人、８～16歳が4人となっている。

県内医ケア児の１割の個別相談に対応 全圏域から相談があり、80%が未就学児

家族からの主な相談内容

- 退院後の在宅生活に不安がある、自宅の環境調整の仕方、どのように学校へ復帰すればいいのか
- 他県の病院の地域連携室とのやり取りについて不安を感じている担当を変えてほしい
- 小児慢性疾患の申請や給付について、教えてほしい
- 福祉サービスについて
  どこに、何を相談したらいいのかわからない、窓口に行くことが困難
- 家族が疲弊しているため、短期入所や施設入所を希望している、福祉サービスを利用したい
- 日常生活用具や蓄電池など身の回りの福祉用具について知りたい
- 地域の学校に通学しているが、体調の変化により新たに医療的なケアが必要になったので、どのように学校で過ごせばいいのか　など

在宅での生活が安定し、相談支援専門員がつき、福祉サービスにつながると、介入が減る

ライフステージ上で、家族環境の変化や児本人の疾患の変化、就労などの
「移行期」に再介入することが多い（伴走支援）

佐賀県医療的ケア児支援センター

地域体制整備 （担当：大野）

地域コーディネーター連携

7月22日	センター・地域コーディネーター連絡会
9月4日	北部圏域地域コーディネーター意見交換会
10月15日	センター・地域コーディネーター連絡会
10月21日	中部圏域地域コーディネーター意見交換会
11月25日	センター・地域コーディネーター連絡会

主催・共催イベント

8月 22日	小児訪看ステーション交流会	32名
9月7日	医療的ケア児等支援者基礎研修	59名
10月1日	（共催）医ケア児を知ろう交流会	90名
10月4日	（共催）福祉ナースの会	23名
12月1.2日	医療的ケア児等Co養成研修	30名
1月13日	小児訪看ステーション研修会	45名
1月19.20日	医療的ケア児等Co養成研修	30名
2月28日	（共催）防災BCP研修　九州各県後援	
2月10日	医療的ケア児等支援者養成研修	

自立支援協議会

6月26日	鳥栖みやき地区　自立支援協議会医ケアWG
7月1日	鳥栖みやき地区　自立支援協議会医ケアWG
8月5日	杵藤地区　自立支援協議会の事前打ち合わせ
9月30日	杵藤地区　自立支援協議会第2回医ケアWG
9月22日	北部　自立支援協議会こども部会
10月3日	佐賀県　自立支援協議会全大会
11月12日	鳥栖みやき地区自立支援協議会WG
11月18日	鳥栖みやき地区自立支援協議会　医ケア児の防災
12月18日	小城多久地区　自立支援協議会こども部会発足

（オンライン）

8月6日	鳥栖みやき地区自立支援協議会医ケア児WG
9月25日	鳥栖みやき地区医ケア児交流会打ち合わせ
10月7日	鳥栖みやき地区自立支援協議会WG事前MT
10月22日	鳥栖みやき地区防災グループワーク打ち合わせ

「地域の課題はその地域で解決する」仕組みづくり

自立支援協議会から選出された地域コーディネーターを圏域ごとに配置し支援の中核とする

センターは2次・3次対応で相談支援専門員・地域コーディネーターをバックアップする

【その他】

・基礎研修・分野別研修、交流会を企画運営し、支援者に向けて年間9回のイベントを実施

・センター運営委員会を毎月開催し、県担当者、アドバイザーを入れて情報・課題共有

・コーディネーター養成状況　「切れ目ない支援の一角を担う」コーディネーター

今年のテーマ：医ケア児を受け持つことができる相談支援専門員を養成する

佐賀県医療的ケア児
支援センター

就園支援（担当：福田）

就園支援コーディネーター連携　計6件

○就園支援コーディネーター意見交換会（全4回）
　就園支援会議に関する報告/新規相談の共有
　支援見込み対象者の共有/今後の会議予定の確認
○センターとの合同意見交換会

就園支援会議等 計26件

○市町からの要請を受けた就園支援会議　17件
　（佐賀市、小城市、多久市、白石町、武雄市、嬉野市
　唐津市）
○その他支援会議　4件
○保育園への見学同行、就学相談への同行
○市町から保護者へのヒアリングへの同行
○訪問看護初回介入時の同行

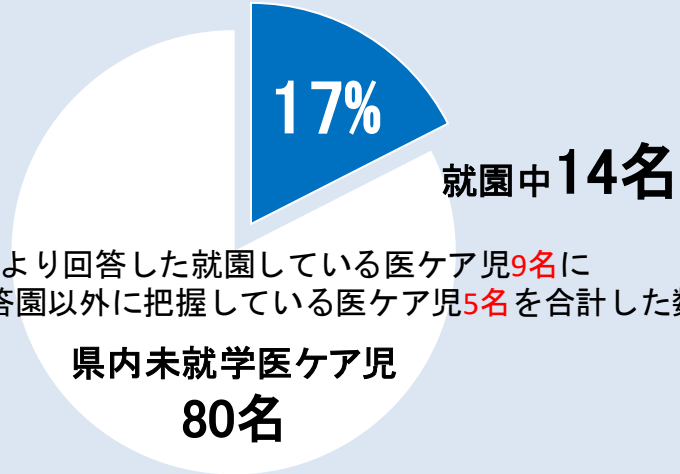
「医療的ケアのあるお友達のことを子ども達に
伝えるための紙芝居」inサロンパスアリーナ

『保育所等における医ケア児受け入れに関する調査』

【実施者】佐賀県こども未来課
【調査対象】県内すべての保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育園、認可外保育施設
【調査期間】令和7年9月16日～9月25日
【調査対象年度】令和4年度～令和7年度

【結果】医療的ケア児受け入れ経験のありが24施設（10%）、今後の受け入れについても前向きに検討したいと回答した。受け入れ経験がない園が受け入れが難しいと考える理由は、保育士不足、看護師不足、設備が整っていないの回答が多かった。

就園している医療的ケア児の割合



地域の園は受け入れへ前向き！　市町ごとの正確な実数把握とマッチングを
今後は、地域Co、医ケアCoが地域別で就園支援する体制づくりが必要
医ケア児が就園できる基盤づくり（ガイドライン等）を市町と協働していく

佐賀県医療的ケア児支援センター

防災 （担当：上田）

2/28 医ケア児の防災BCPの研修開催予定

佐賀県医療的ケア児等防災アドバイザーと連携

- 個別避難計画作成に伴う専門知識の付与
- ハザードマップから優先順位の選定やアドバイス
- 各自治体協議会への参加（勉強会や講演含む）
- 自助意識の醸成
- 避難所の整備に関する相談
- 難病疾病対策担当との連携と協議
- その他、直接相談への対応（他県含む）

避難訓練 5件

- 白石町大雨災害を想定した避難訓練の実施
- 武雄市地震災害を想定した避難訓練の実施
- 鹿島市防災事前情報共有会
- 佐賀市個別避難計画書作成推進モデル、キックオフMT
- 小城市避難訓練キックオフMT（今後、訓練に繋げる）
- 多久市個別避難計画書作成支援と相談（今後、訓練に繋げる）
- 佐賀市個別避難計画書作成支援と相談（今後、訓練に繋げる）

市町ヒヤリング状況 20件

防災担当者として全市町担当課へ挨拶まわり、個別避難計画書作成状況について、確認を行なった。医ケア児の避難先についても確認し、電源の確保やスペースが課題に。個別避難計画書を統一してほしいという声が多くあった。

参加・発表

7/19第6回九州小児在宅医療支援研究会
「医ケア児等の災害対策」佐賀県の取り組みを
防災アドバイザーが発表　九州各県センターと意見交換
12/6（一社）医療的ケア児等Co支援協会　全国大会2025
防災の扉分科会にて「佐賀県の避難訓練について」発表

医療的ケア児等の防災に関する課題

各市町、主たる担当者が明確ではない、マンパワー不足、横との連携の難しさ、当事者の自助意識の低さなどがあげられている。

感想として、福祉関係者が防災に関心を持ち当事者の不安や相談に対応し個別避難計画書等作成に意欲を見せるが、各市町の対応が上記の理由につき前進しないことが多かった。

また、各市町からは**「県の方針があれば動きやすい」**という意見も多くあった。

→どんな方針があれば市町は動きやすいのか？要検討

佐賀県医療的ケア児
支援センター

3.佐賀県の現状について

【医ケア児が全圏域に満遍なく分布　（医ケア児の数が面積の割に多い）】

子育てし大県“さが”
医ケア児が暮らしやすい基盤

面積が小さい　全国5位
こどもの割合（人口比）　全国3位
世帯平均人数　全国3位
三世代同居率　九州1位　全国7位
父親の育児参加率　全国1位
共働き世帯　九州１位　全国8位
自動車所有台数　全国２位

小児医療体制が充実している

隣県拠点医療機関に囲まれている※1
重心施設が県内4拠点あり充実※2
在宅医療（訪問診療・看護）が充実
隣県との医療連携基盤が整っている

保健師の医Coが少ない

養成研修受講率が少ない
（全国実態調査、宮城県・愛知県・熊本県を参考）

◎センターとして今後の方針

佐賀県特有の医ケア児を育む土台をもとに・・・

圏域ごとに全く違う社会資源・支援体制がある→「地域Coによる地域別支援」

隣県地域連携室から退院の連絡→「隣県のセンター・拠点医療機関との連携体制構築」

県市町保健師のコーディネーターを養成し、5分野協議の中核的役割へ・・・

佐賀県医療的ケア児
支援センター

東部：福岡県の拠点医療機関から退院
西部：長崎県の拠点医療機関から退院

福岡市立こども病院

九州大学病院小児科

福岡大学病院小児科

福岡大学筑紫病院

久留米大学病院小児科

聖マリア病院

NHO佐賀病院

佐賀大学医学部附属病院

佐世保市総合医療センター

長崎医療センター

長崎大学病院

※１医ケア児が退院する拠点医療機関

佐賀県医療的ケア児
支援センター

西部（南部）：重心施設がないため長崎県へ相談
東部：２施設あり、福岡県側の利用希望者も多い

※２重心医ケア児が利用する重心施設

4.今後の課題と方向性

「地域の課題はその地域で解決する」

- 地域Co・自立支援協議会・基幹型相談支援センター連携体制づくり
- 県市町の保健師がコーディネーター修了し配置され5分野協議の連携の中核を担える体制へ「切れ目ない支援の中核的役割」
  （避難計画・就園をきっかけに5分野協議を定例化させる）
- 隣県医ケア児センター・拠点医療機関との連携体制強化
- 成人移行への対応　医療的ケア者の就労・生活介護資源開発
- レスパイト事業開設支援（県内・他県からも相談対応経験あり）
- 重症心身障害児者・発達障がい・医ケア者への対応→『等』のセンターへ
- センター内コーディネーター１名で対応できる体制を5年で目指す

佐賀県医療的ケア児
支援センター

生まれてきた地域で
最期まで安心して暮らせるように・・・

私たちの役割

つながる
共につながり

つくる
チームづくり

つづける
伴走しつづける